

授業概要

科目名	失語症Ⅰ				授業の種類	演習	講師名	杉本彩乃
授業回数	15回	時間数	30時間	1単位	必修・選択	必修	配当学年 時期	ST1年 後期
【授業の目的・ねらい】 失語症についての基礎的な知識を習得する。言語症状の把握と有効なコミュニケーション手段を考える。 訓練技法や教材作成に興味を持ち、臨床に役立てる。								
【実務者経験】 言語聴覚士として半田中央病院に勤務し、成人分野の急性期から慢性期までのリハビリに従事する。								
【授業全体の内容の概要】 失語症のタイプ分類・専門用語の把握・言語治療の方法について身につける。								
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 失語症者の心理・社会的背景を把握することができる。 専門用語を説明できるようになる。								
回数	講義内容							準備物(教材)
1	失語症の定義、言語野について理解できる。							教科書 配布資料
2	失語症の原因疾患について理解できる。							教科書 配布資料
3	言語症状、近縁症状、随伴症状について理解できる。							教科書 配布資料
4	ブローカ失語、ウェルニッケ失語、伝導失語、健忘失語について理解できる。							教科書 配布資料
5	超皮質性失語、全失語、交叉性失語、純粋型について理解できる。							教科書 配布資料
6	失読、失書、原発性進行性失語について理解できる。							教科書 配布資料
7	認知神経心理学について理解できる。							教科書 配布資料
8	言語治療、ICFについて理解できる。							教科書 配布資料
9	失語症評価、情報収集について理解できる。							教科書 配布資料
10	情報収集、鑑別診断について理解できる。							教科書 配布資料
11	言語治療、ヒヤリハットについて理解できる。							教科書 配布資料
12	小児失語、社会復帰について理解できる。							教科書 配布資料
13	SLTAを演習する。							SLTA
14	総まとめ							教科書 今までの配布資料
15	復習							教科書 今までの配布資料
定期筆記試験								
【使用教科書・教材・参考書】 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 医学書院								
【準備学習・時間外学習】 指定教科書の予習と、講義後の復習を行うこと。								
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。								